

すばやく簡単に組める基礎



施工要領書 ver.9

この度は、当社の商品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この施工要領書は、RESIN WOODⅡ 及びTHILFEの

2,700×2,259mmのデッキを施工するときの代表的な施工方法です。

ご購入いただきました商品バリエーションによっては

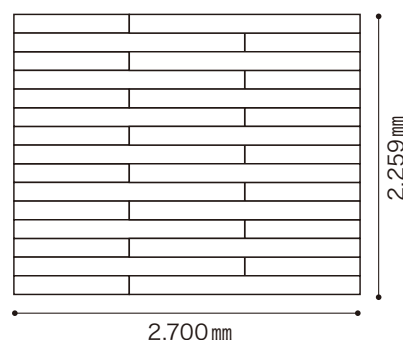
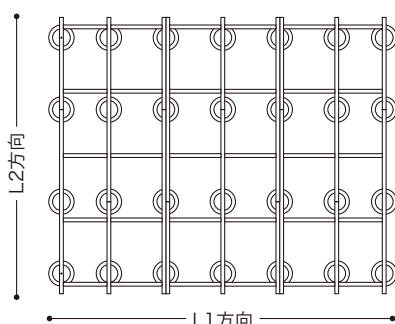
施工方法が異なりますのであらかじめご了承ください。

シングル工法の組立て手順

※450ピッチ床板W145 L1800 (1795) 対応規格の場合

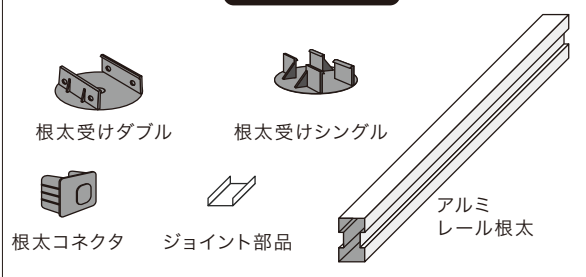
【施工完成イメージ図】

2,700 × 2,259mm

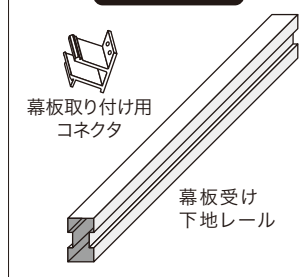


【THILFEのパーツ】

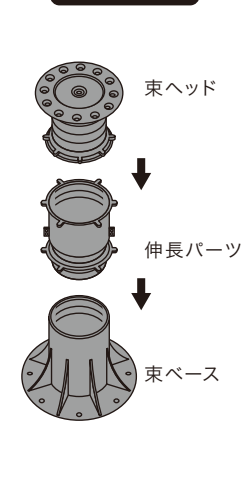
根太セット



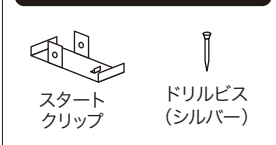
その他



束セット



スタートクリップセット



固定クリップと専用ビス



デッキ幕板固定ビス



仕様によっては含まれない材料もあります。デッキ、幕板は記載しておりません。

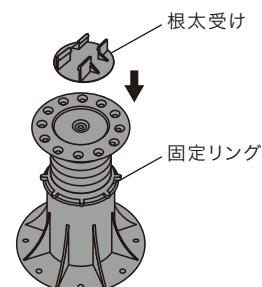
1 束の配置



図面※を元に基準となる線を引き、根太受けを取り付けた束を配置していきます。

この時、束セットを組みますが、固定リングは締め付けず、ある程度の高さとしてセットしてください。

※「THILFE 根太セット」の各商品ページより図面 (PDF) がダウンロードできます。



束をボンドで束石やコンクリートに固定する場合は、屋外用ボンドを使用してください。

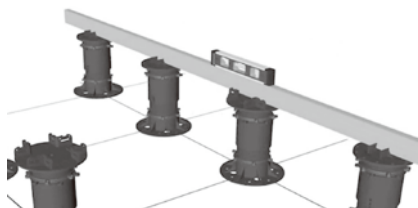
※ボンドでの固定は必須ではありません。

【参考】

ウッドデッキは風で飛ばされるのか

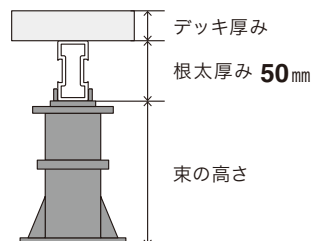


2 高さの調整



根太受けを取り付け、束の高さを調整します。全体の高さを合わせ、束の固定リングをしっかりと締めます。

※アルミ根太を取り付けた後でも微調整は可能ですが、根太受けが回らなくなるため回しにくくなります。



3 アルミ根太の設置

※デッキを建物の壁と並行に施工する場合は、スタートクリップが取り付けにくくなるため、先にSTEP⑥のスタートクリップの取り付けを行ってください。

長手方向の根太1,506mmまたは753mmのアルミ根太を束の上に交互にセットしていきます。

アルミ根太の接続方法

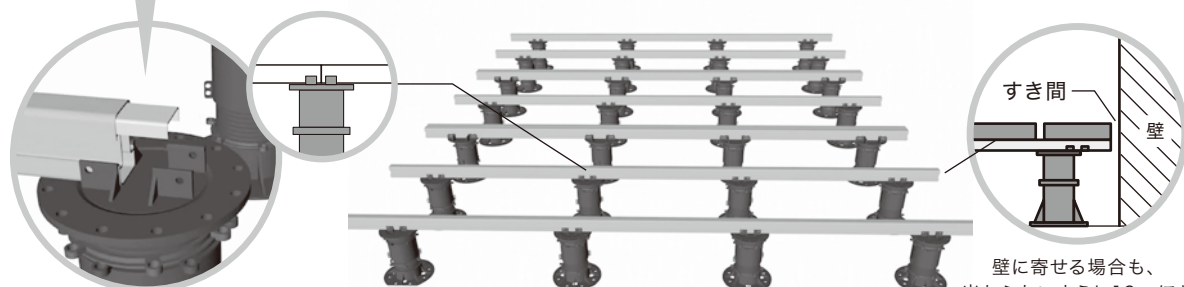
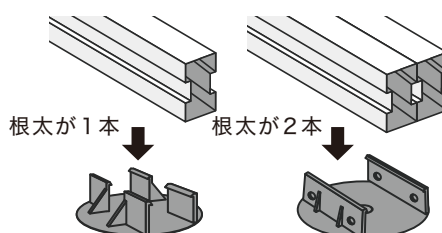


ジョイント部品の突起のある方を差し込みハンマーで軽くたたいて入れてください。

※完全に固定される必要はなく、根太ジョイント部分にデッキを留めるビスが来た時の下地となります。

根太受けシングル

根太受けダブル



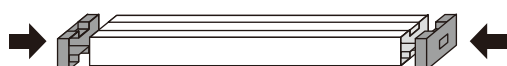
根太の接続部分は束の上になります。

壁に寄せる場合も、当たらないように10mmほどすき間を空けて設置します

4 根太の接続

長手方向の根太を400mmまたは340mmのアルミ根太で接続します。
340mmの根太は最も外側の列でのみ使用します。

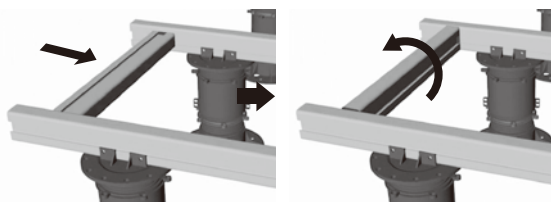
根太コネクタの取り付け



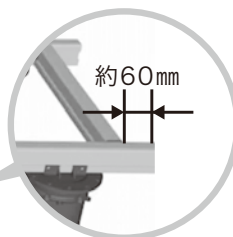
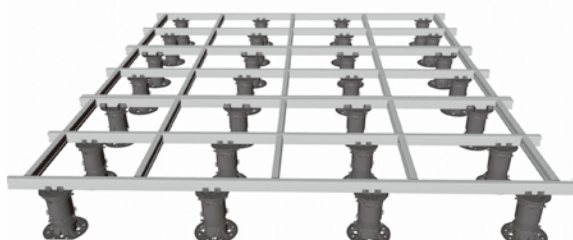
長手方向の根太と交差する短い根太を接続するためのコネクタを差し込みます。



※大きいサイズのウッドデッキや、広範囲への施工の場合は、根太コネクタを奥まではめ込んだ後、アルミ根太の両端をドリルビスで固定することをおすすめします。



コネクタをつけた根太を倒した状態でコネクタを長手の根太の溝に沿わせて、90度回転させることで固定します。固定は仮の状態であり、引っ張るとコネクタが外れます。デッキを施工することで、完全に固定され安定します。

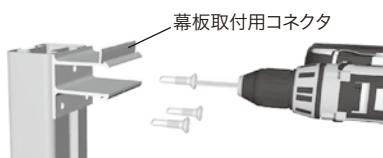


全ての短い根太を取り付けます。最も外側に位置する根太は長手の根太より約60mmの位置で取り付けます。その他の束と束の間に位置する根太は正確に測る必要はなく、ある程度均等に配置してください。

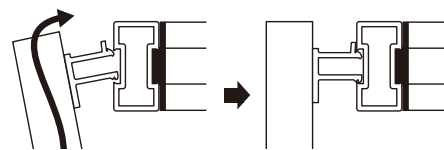
5 幕板受け下地レールの取り付け

幕板をつける場合は、幕板受け下地となる部材を組み立て、根太に接続します。

幕板取り付け用金具の接続



幕板下地用レールに取り付け、金具を付属のドリルビスで固定します。
※床板を張ったときに当たらないよう、コネクタは幕板下地レールの上端から10mm以内に取り付けてください。

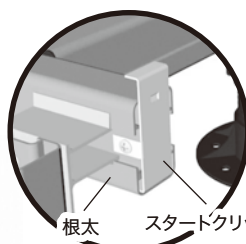
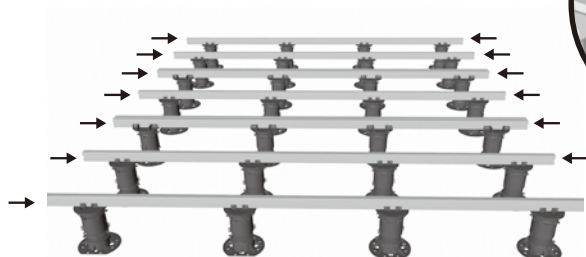


接続金具を取付けた幕板受けレールを根太に斜めから差し込み、カチンと音がするまで押し込んで取り付けます。

※WEBページや施工方法の動画によってはコネクタの上下の向きが異なりますが、どちらの方法でも取り付け可能です。

6 スタートクリップの取り付け

※脳天ビス止めの場合は不要



スタートクリップの下側が根太内部の下辺に沿うように取り付けます。付属のビス(シルバー)を使用し固定します。2本根太が並ぶ場所にはスタートクリップをそれぞれ取り付け、ビスは取付けやすいサイドのみの固定で問題ありません。

また、デッキ全体の両端にスタートクリップを最初につけてしまうと、デッキの張り終いの列の固定が難しくなるため、デッキ張り始めの端にスタートクリップを取り付け、デッキの張り終わり時にもう片方端のスタートクリップを取り付けます。

7 デッキの割り付けの印をつける

RESINWOODⅡは145mmの中で約5～7mmの隙間を開けて設置します。

【例】2259mmの長さに15枚のデッキを並べる場合

$$2259 - 15 \times 145 = 84\text{mm}$$

14箇所ある隙間の合計の長さ

1つあたりの隙間は

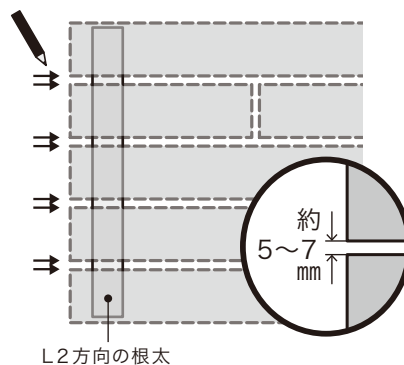
$$84 \div 14 = 6.0\text{mm}$$

割付寸法表が生成できます

RESTAのWEBページ「デッキの自動計算」に仕上がり寸法を入力することで、145mm幅のデッキを使用した場合の割り付け寸法表を生成、ダウンロードできます。

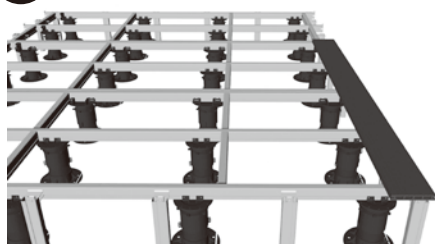


必要材料の自動計算



L2方向の根太

8 1列目の仮配置



必要に応じてデッキをカットし、1列目を根太の上に並べます。

9 デッキの脳天ビス止め

※スタートクリップの場合は不要

必ず下穴をあけてから施工してください。デッキの伸縮を考慮し、使用するビス(推奨サイズはΦ5mm)に対して、1.5～2.0mm大きい下穴をあけてください。

また、脳天ビス止めをする位置は、下図を参考にしてください。



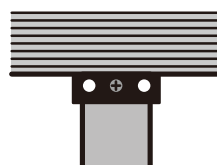
10 1列目クリップの仮固定



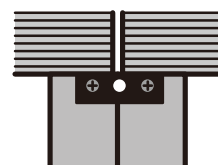
ビス頭が少し出るくらい

デッキにクリップをはめ、デッキが割り付けの線の位置にあることを確認し、黒いドリルビスを使ってクリップを固定していきます。この際、ビスは締め付けしないでください。締め付けると次の列のデッキがはまらなくなります。

クリップの位置とビスの数

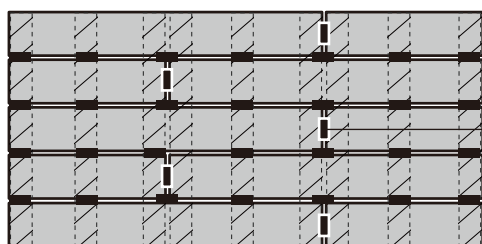


根太が1本の場合
使用するビス：1本



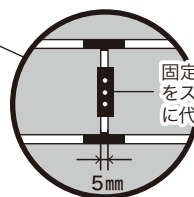
根太が2本の場合
使用するビス：2本

11 デッキの仮固定



■ 固定クリップ ■ 根太 ■ スペース (固定クリップ)

2列目以降も同様に、根太に引いた割り付け基準線通りにデッキが配置されていることを確認しながらクリップを順に仮固定します。



固定クリップを
スペーサーに代用

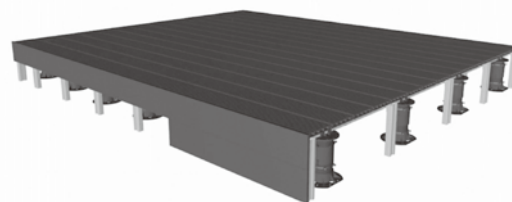
床板の継ぎ目部分はデッキ材の伸縮を考慮し、約5mmの隙間を開けてください。スペーサーとして固定クリップを代用することもできます。

12 すべてのクリップの固定



デッキが均等に配置されていることを確認し、全てのビスを締め付けます。

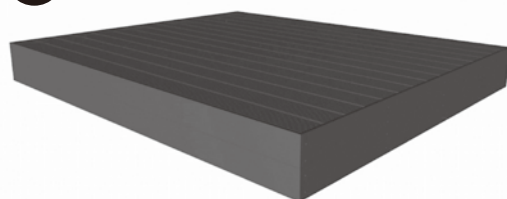
13 幕板の取り付け



幕板を取り付ける際は、必ず幕板に下穴を開けてから施工してください。

また、2枚の幕板が連続する場所には1本の幕板受け下地に固定してください。

14 完成



施工完了後、製品にがたつきなどが生じていないことを確認してください。

カラー写真でより詳しく確認することができます

RESIN WOOD & THILFEの施工方法

【DIY編】



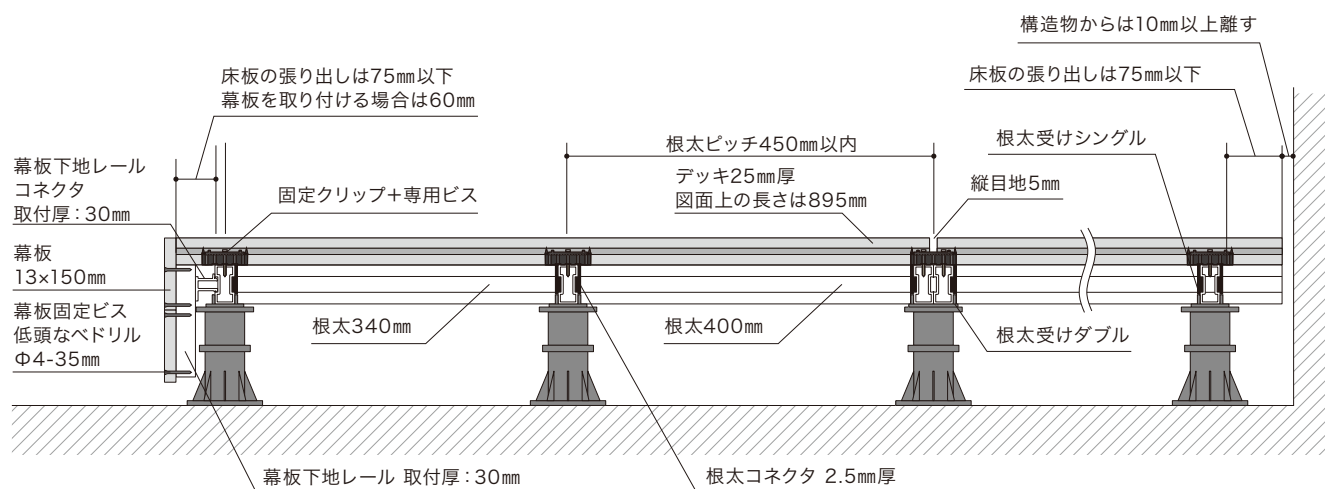
【応用編】



納まり図

L1方向

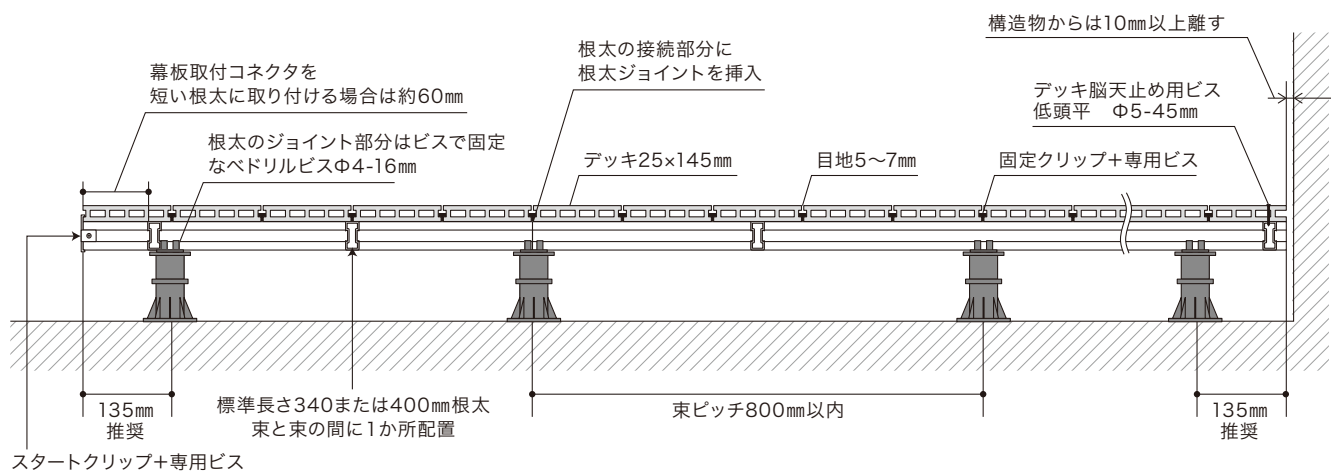
※この図では、根太ジョイント、スタートクリップを省略しています。



納まり図

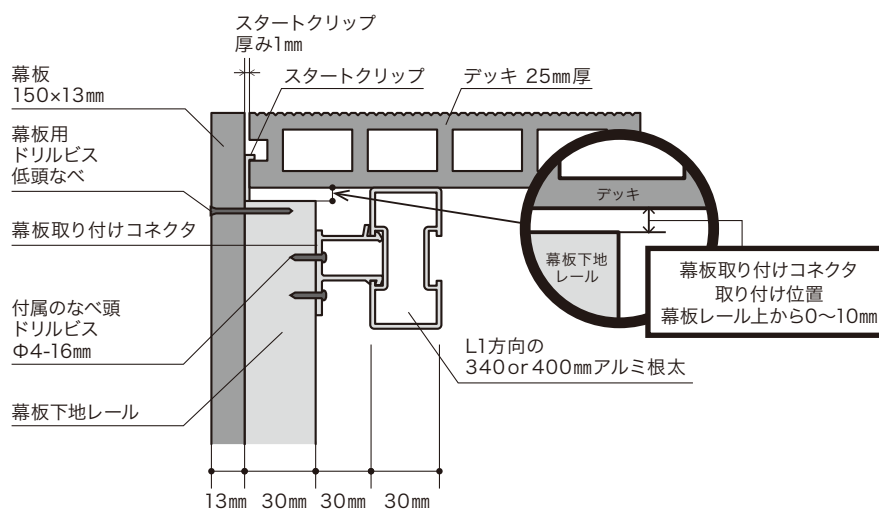
L2方向

※この図では、根太ジョイント、スタートクリップを省略しています。



納まり図

幕板取付け金具納まり図1 (短い根太に取付ける場合)



納まり図

幕板取付け金具納まり図2 (長い根太に取付ける場合)

